

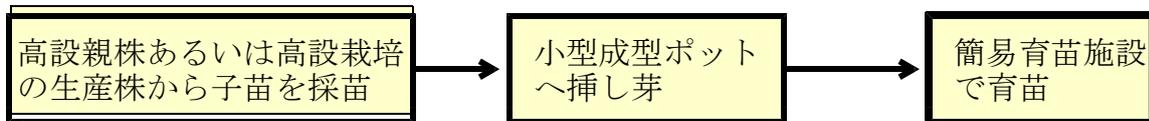


イチゴ「さちのか」の 空中採苗による挿し芽育苗

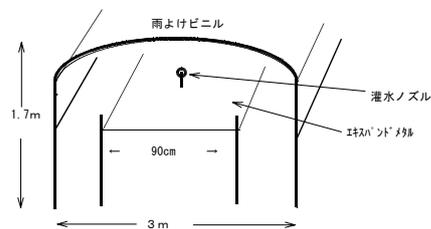
近年、イチゴ栽培は高設型の養液栽培が全国的に普及し始めており栽培の省力化が図られてつつあります。しかし、育苗については5月から9月までの5ヶ月間という長期間、毎日、ランナー受け、灌水、施肥といった作業をする必要があり、生産者には大きな負担となっています。また、近年、育苗時の病害の蔓延も大きな問題となっています。

そこで、当農業研究所では育苗の省力、安定化を目的に簡易雨よけハウスを利用した育苗施設を開発し、その施設を利用した空中採苗による挿し芽育苗技術を確立しました。

空中採苗による挿し芽育苗の概略



簡易育苗施設

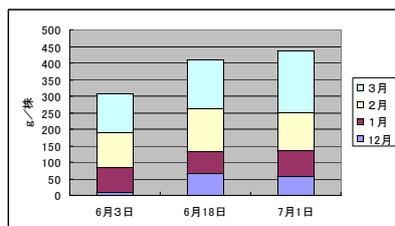


ミニパイプハウス（間口3m、高さ1.7m）に雨よけ状態にビニルを被覆し、ハウス内に幅90cmの育苗台を鉄パイプで設置します。灌水はタイマー付き電磁弁で自動制御します。

挿し芽後10日間は50%遮光資材をビニルのうゑに被覆し、頭上灌水を1回当たり3分、1日に8～10回行います。活着後は遮光資材を取り除き、灌水を1回当たり5分、1日に3～5回行います。

挿し芽育苗技術

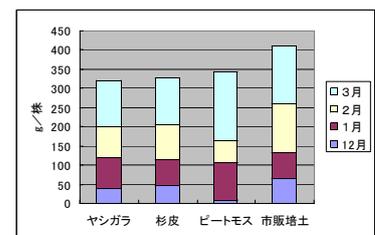
- 1) 挿し芽用の子苗の大きさは本葉1～3枚程度のものを用い、挿し芽の時期は6月下旬～7月上旬に行います。
- 2) 育苗用の小型成型ポットはスクスクトレイ24が生育、収量、省スペースから見て適当です。
- 3) 育苗の培土は市販培土（与作イチゴ専用培土）を用います。



挿し芽時期と収量



スクスクトレイ24



育苗培土の種類と収量

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

農業研究所

野菜園芸担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>